

25	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106012	ナノケージ材料からの気相O ⁻ イオンの生成と応用	定方 正毅 (工学院大学・工学部・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>研究計画調書、交付申請書に記載の計画については概ね順調に研究を進めている。事実、本研究に関する基礎研究は平成8年から16年にかけて実施されている。しかし、本研究はこれらの成果を踏まえて格段に発展させるべく応用研究に力点をおいている。その視点から見て、定量的な目標設定、たとえば反応温度、反応圧力下での分解率、殺菌率、酸化速度などの検討が必要と思われる。ラジカルや負イオンの利用には、反応場に関する検討や実用装置の工学的検討が必須である。これらに関しては技術開発が網羅的である印象が強い。今後応用分野では重要事項を絞り、基礎面でも酸素イオン発生の機構解明など基礎的知見をさらに集積するなど、集中的に進めて本基盤研究(S)に相応しい成果を上げることを期待する。</p>				
26	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15106013	惑星アエロブレーキ基礎技術の研究	八坂 哲雄 (九州大学・大学院工学研究院・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>木星大気アエロブレーキに必要な基礎技術を研究開発し、地球周回衛星を用いて確認しようとする本研究の狙いは魅力的である。また宇宙機設計・大気航行・宇宙機制御の3分野の課題を連携させて研究するというアプローチも、大学における研究活動を活性化し、人材を育成する上で効果的と考えられ、好感が持てる。宇宙機設計の課題については、小型テザー衛星 QTEX の研究開発が成果を収めつつあり、評価できる。</p> <p>しかし、独創的・先駆的な知識の創出と技術の開発という目標に照らして学術的貢献・普及性・波及性の観点から、これまで得られた成果について判断すると、高い評価が得られたとは言い難い。特に大気航行・宇宙機制御の分野については個別研究に留まっている点が指摘される。優れた成果を世界に発信し、広く人材を育成する長期的なプロジェクトとして歩み続けるためには、大気航行・宇宙機制御分野におけるより高度な研究が必要と判断される。加えて、宇宙機設計を加えた3本柱の間の密な連携による研究の一層の進展とその成果の地域産業への波及が望まれる。このように、今後一層の努力が必要であると判断される。</p>				